

成績評価・授業改善

GRADE AND COURSE EVALUATION



成績評価を受ける

大学生は自分で履修登録した科目の評価を受け単位を取得し、学則に定められた単位数を満たすことにより卒業することができます。

01 成績評価基準と合格点

(1) 成績評価基準

成績評価基準は素点(0～100点)に基づく11段階(S、A+、A、A-、B+、B、B-、C+、C、C-、D)です。

(2) 合格点

合格点は60点以上です。

	合格 (単位修得)										不合格	
素点	100 ～90	89 ～87	86 ～83	82 ～80	79 ～77	76 ～73	72 ～70	69 ～67	66 ～63	62 ～60	59 ～0	未受験 ・他
成績	S	A+	A	A-	B+	B	B-	C+	C	C-	D	E

※素点：各科目の担当教員により試験やレポート等から算出した点数

評価	意味
S	学習目標を満たし、卓越した成績をあげた
A	学習目標を満たし、優秀な成績をあげた
B	概ね学習目標を満たした
C	最低限の学習目標を満たしたが、不十分な点も見られる
D	学習目標を満たしていない



大事なことだから
きちんと理解
しよう。



目標はB-以上

合格点は60点以上になりますが、これは合格と認められる最低の成績であって、海外の大学などでは70点以上がその科目の要求を満たす成績と考えるところが多いようです。B以上の成績を修めれば、皆さんもその科目を理解したという実感がわくでしょう。皆さんが常にB以上の成績を修められることを期待します。

02 GPA 制度について

本学では、自律的な学習推進を目的とし、全科目においてGPA (Grade Point Average) 制度を導入しています。

(1) GP (Grade Point)について

11段階の成績評価S～Dと未受験その他の場合の評価Eに、それぞれGPがつきます。

	合格 (単位修得)										不合格	
素点	100 ~90	89 ~87	86 ~83	82 ~80	79 ~77	76 ~73	72 ~70	69 ~67	66 ~63	62 ~60	59 ~0	未受験 ・他
成績	S	A+	A	A-	B+	B	B-	C+	C	C-	D	E
GP	4.0	3.3	3.0	2.7	2.3	2.0	1.7	1.3	1.0	0.7	0.0	0.0



(2) GPA (Grade Point Average)について

みなさんが履修した科目の成績評価としてS～Dまでの評価がつきますが、それらをGPに置き換え、履修した単位数を掛けます。それがその科目のポイント数になります。さらに履修したすべての科目のポイントを合計し、履修単位総数で割って平均点を算出します。これがGPA (Grade Point Average)です。GPAの算出方法は以下のとおりです。計算値は小数点以下第3位を四捨五入して表記します。

$$GPA = \frac{\text{履修登録した各科目のGP} \times \text{その科目の単位数} \text{の総和}}{\text{履修登録した全科目の総単位数}}$$

(3) GPAを表示する書類について

●成績通知書

- i. 各学期・セメスターのGPA
- ii. 直近の学期・セメスターまでを通算したGPA

●成績証明書

直近の学期・セメスターまでを通算したGPA

(4)登録の抹消について

未受験その他によるE評価の科目は、GPA計算式において、GPを0点として分子に算入し、単位数を分母に算入しますので、D、E評価が多いほどGPAが低下します。その理由は、皆さ

んがしっかりとシラバスを読み、履修したい科目を慎重に決めたくうえで、科目登録してもらいたいからです。一度登録した科目は自覚をもって履修してください。ただし、一定期間内に申し出れば、登録を抹消することができます。登録抹消の期限については学部によって異なりますので、所属の学部事務、掲示板等で必ず確認するようにしましょう。

(5)活用方法

GPAはみなさんの成績を数値化し、客観的にみるための手段です。セメスターごとと通算の二つのデータが出されるので、1年次と2年次、あるいは3年次、4年次の成績を比較したり、推移を確認することで学習効果を自分で確認することができます。GPAが上がっていれば、努力の成果が現れたということです。また、下がってれば、なぜ下がったのかを分析し、成績向上につなげられます。GPA制度によって、皆さんは自分の学習を自分で管理できるようになるため、この制度を活用し、大いに役立ててください。



GPT (Grade Point Total)にも注目

大学のグローバル化が加速する中、GPAを採用する大学が年々増加の傾向にあります。文部科学省発行の2015年度調査資料によると、日本の学部段階においてGPA制度等を導入している大学は約85%に及びます。大学は、奨学金採用や大学院進学などの際に、成績優秀者を選考する資料としてGPAを利用することがあります。また最近では企業も採用の参考にするところがあるので、学生にとってはますます気になる指標といえるでしょう。

しかし、GPAにこだわりすぎると、SやA+を取りやすい最少限の科目しか履修せず、興味はあるが良い成績を取るのが難しそうな科目を敬遠する学生が出てきます。そこで、学部・学科の中には、GPAとともにGPT (Grade Point Total)を成績評価の指標として採用する、またはGPTの方を重視するところもあります。GPTは、以下のように算出します。

GPT=(履修登録した各科目のGP×その科目の単位数)の総和

GPTとは科目を履修すればするほど上がっていくことがわかるでしょう。GPTを利用する学部・学科は、幅広い知識や素養を身につけることを学生に促しているのです。ただし、高いGPTを獲得しようとするあまり、多くの科目を履修し、その結果一つひとつの科目の理解が不十分になってしまうのも問題です。まずは、所属している学部・学科の成績評価はGPAとGPTをどのように活用しているのかを調べたくうえで、適切に科目を履修し、これらの指標を大学の学びに有効活用してください。

FAQ

Q GPAが何かに利用されることはありますか？

A GPA制度は、大学、学部を問わず、大学生の成績を比較できる制度です。実際、奨学生や成績優秀者選考の基準にもなっており、就職活動の際に重視する企業もでてきます。国際的な成績評価システムですので、海外の大学院進学の際には提示を求められることがあります。

Q 修得単位認定(RR評価)や留学による外国大学の修得単位認定(RS評価)はどのように扱われますか？

A RR評価やRS評価についてはGPAに算入されません。また、グレード評価には馴染まない各学部・学科等が判断した科目については「Pass(合格) / Fail(不合格)」「P-F評価」という形で成績評価をすることもあります。P-F評価指定科目についても同様にGPAには算入されません。

Q GPA算出の具体例を教えてください。

A 評価がすべて「S」であれば、GPAは「4」となり、すべて「D」であれば「0」となります。具体的な例として下記を参照してください。

【例】法政太郎さんの成績表

科目名称	評価	GP	単位数	GP×単位数
人間環境学入門Ⅰ	A+	3.3	2	6.6
英語Ⅰ	C	1.0	1	1.0
英語Ⅱ	E	0.0	1	0.0
フランス語Ⅰ	A-	2.7	1	2.7
スポーツ種目Ⅰ	B	2.0	1	2.0
行政法の基礎	A+	3.3	2	6.6
NPO・ボランティア論	B+	2.3	2	4.6
自然環境論Ⅰ	S	4.0	2	8.0
生命科学Ⅰ	B	2.0	2	4.0
地理学Ⅰ	D	0.0	2	0.0
情報処理基礎	C+	1.3	2	2.6
基礎演習	A	3.0	2	6.0
統計処理Ⅰ	B-	1.7	2	3.4
合 計			22	47.5

Q GPAの算出には不合格科目(D、E評価)も算入されますか？

A はい、されます。よって、不合格科目が多ければ多いほどGPAは低下します。

Q GPAの算出には教職・資格科目など卒業所要単位外で履修する科目も算入されますか？

A いいえ、されません。ただし、卒業所要単位を超えて履修した基礎科目・専門科目についてはGPAに算入されます。

Q 不合格科目(D、E評価)を再履修して単位修得した場合のGPAはどのように扱われますか？

A 不合格科目(D、E評価)でも再履修の結果、単位が認定されれば、それ以前の評価の代わりに、最後の成績評価のみをGPAに算入します。ただし、学期・年度内のGPAについては、さかのぼって修正することはしません。

Q 昨年度までは5段階評価だったと聞きました。11段階評価になるとどんな良い点がありますか？

A 評価が細分化されることになり、GPA評価の公平性・客観性・信頼性が増すことになります。たとえば、5段階評価だと79点も70点も同じB評価ですが、11段階評価だとB+、B-と評価されるため、学修成果がより正確に示されます。

Q 2年生です。昨年度は5段階評価で成績が出ていましたが、今年度は11段階評価になると、成績通知書や成績証明書はどのような記載になるのでしょうか？

A 累積GPAは海外留学や就職活動時等で先方大学や企業等に参照されることが多いため、新旧GPAを合算して1つの累積値を成績通知書や成績証明書に記載します。

Q Sにも＋はつきますか？

A いいえ、つきません。同じくDにも＋はつきません。



授業改善アンケート

01 授業改善アンケートとは

「この授業、わかりにくいな」「こうすればもっと面白くなるのに」——そんな感想や意見をもったことはありませんか。

学生の皆さんの声を大学のFD活動に生かすため、法政大学では2004年度から原則としてすべての学部・学科、大学院(博士後期課程は非実施)で「学生による授業評価アンケート」を実施してきました。さらに2009年度からは「学生による授業改善アンケート」と名称を改め、段階評価中心の質問項目に代えて、より具体的な質問項目や自由記述欄を多く含むアンケートを実施してきました。実施方法については、学生の皆さんが責任をもって回答できるよう、記名式になっています。

2014年度秋学期からは、Webシステムでの実施に切り替え、実施期間中はいつでもどこでも、インターネットを介して授業改善アンケートに回答できるようになりました。

02 アンケートの集計と分析

それでは、皆さんに回答していただいたアンケートは、その後どうなるのでしょうか。

アンケートは、授業ごとに集計され、教員はWebより結果を確認しています。学生の氏名や学生証番号は教員には表示されませんので、授業改善のために、どうぞ忌憚のない意見を入力してください。成績評価に影響することはありません。

03 アンケートの活用と成果

「私の記入したアンケート回答は、何かの役に立ってるの?」そう思った人もいるのではないのでしょうか。

各学部や学科、研究科では、アンケートの結果を授業改善に生かすために、さまざまな取り組みを行っています。また、シラバスには授業改善アンケートによる気づきの欄も設けられており、授業の担当教員がどのような改善の努力を行っているかが分かるようになっています。



授業改善アンケートのチェックポイント

- アンケートの結果は、授業改善の組織的な取り組みのためのデータとして活用されます。授業改善に寄与するという自負をもって正確かつ責任ある回答を心がけましょう。
- 自由記述欄に書かれた皆さんの意見や感想は、氏名や学生証番号は判らない形でそのまま担当教員に届きます。皆さんの意見や感想が授業改善に役立つよう、具体的な記述を心がけるとともに、読み手に不快感を与えるような表現や内容は慎みましょう。

04 あなたの声を授業改善に

FD活動には、教員ばかりでなく、職員、学生の三者が問題意識を共有し、相互に意見交換をしながら組織的な活動を進めていく必要があります。なかでも実際に授業に参加している皆さんの感想や意見は、教員に多くの「気づき」を与えるばかりでなく、大学全体の教育のあり方を考えるうえでも重要な手がかりを与えてくれます。改善点だけでなく、授業の良かった点や興味深かった点なども、是非聴かせてください。

授業改善アンケートを通じて、あなたの声を本学のFD活動に生かしてください。

法政ポータルサイト(Hoppii)→【授業改善アンケート】にアクセスしてください。



学生の声を
教員に直接伝えること
ができる
貴重な機会だね。



ただ受講するだけでなく
自分自身も
授業を作っている
という気持ち
大切だね。



文学部心理学科・人文科学研究科心理学専攻では、各教員がアンケートから得た「気づき」を文章化し、学生がよく利用する実習室わきに掲示して改善点を公開しています。



FDってなに？

FDとは、Faculty Developmentの略語で、大学などの教育機関が教育の質を向上するために行っている取り組みをいいます。本学では、「自由と進歩」の建学の精神に基づく教育理念と教育目標を達成するためになされる、教育および学びの質の向上を目的とした教員・職員・学生による組織的・継続的な取り組み」とFDを定義し、様々な活動を展開しています。詳細は、教育開発・学習支援センターのホームページよりご確認ください。

(法政ポータルサイト(Hoppii)→【教育開発・学習支援センター】にアクセス)

